

医療入門（全人的医療基礎講義含む）

責任者・コーディネーター		医学教育学講座 医学教育学分野 田島 克巳 教授	
担当講座・学科（分野）		医学教育学分野、地域医療学分野、教養教育センター	
担当教員		祖父江 憲治 学長、佐々木 真理 医学部長、田島 克巳 教授、伊藤 智範 教授、江尻 正一 教授、相澤 文恵 教授、川田 龍平 客員教授、相澤 純 特任講師、伊藤 達朗 非常勤講師、佐藤 元美 非常勤講師	
対象学年	1	区分・時間数	講義 7コマ 10.5時間
期間	前期/通期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 50コマ 75.0時間

・学習方針（講義概要等）

6年間にわたる医学教育のearly clinical exposureの第一段階として位置づけられる。臨床医学および医療の現場の一端にふれ、将来すぐれた医師になることを目指して努力するモチベーションを与える。

・教育成果（アウトカム）

early clinical exposureの第一段階として、医療機関での医療・地域医療・医療行政・看護・介護の現場の一端にふれ、初歩的な救命処置を学習することで、医療のプロフェッショナリズムという概念を早期に学修し、医学生としての自覚を高めるとともに、これから学ぶ医学専門教育の重要性について説明できる。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	積極的に参加し、講義を傾聴することができる。
2	講義の内容を整理し、それに対する自分の意見を論理的に述べる事が出来る。
3	必要な情報を図書館やインターネットを利用して収集できる。
4	自分がどのような医療人でありたいかを具体的にイメージし、分かりやすく説明できる。
5	真の医療人に求められる人間性とはどのようなものか、自分の考えを具体的に説明できる。
6	日本および岩手県の医学・医療の現況・展望と本学の役割について説明できる。
7	建学の精神理解し、全人的医療人としての自己イメージを具体的に形成することができる。
8	プロフェッショナリズムとは何か、説明できる。
9	初歩的な救急蘇生法を説明・実践できる。
10	地域医療の現状の把握と問題点を抽出し、解決法を考察することにより、地域医療の実態を把握し、見識を深めその重要性和本質を説明できる。
11	介護施設入所者、高齢者に対する医療、社会保障の問題を考え、整理できる。
12	介護の現場を体験し、保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。
13	患者・介護施設入所者とのコミュニケーションを通じて、良好な人間関係を築くことができる。
14	医療・看護の現場を体験し、医療における医師・看護師の役割、チーム連携、責任体制について説明できる。
15	薬害が発生するにいたる経緯を理解し、医療者の責任を説明できる。
16	エンドオブライフの医療的介入の問題点を列挙できる。
17	人生の最終段階を生きる患者とその家族のQOLに配慮するようになる。
18	医療におけるリスクベネフィットを説明できる。

・講義場所

講義：東1-A講義室

実習：県内外の医療機関・保健福祉施設・行政機関等

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	4/28(水)	4	医学部	佐々木 真理 医学部長	医学・医療の現況と展望	1,2,4,5,6,7
講義	5/12(水)	4	医学部	伊藤 達朗 非常勤講師	【特別講演】地域医療について1	1,2,4,5,10
講義	5/19(水)	4	医学部	佐藤 元美 非常勤講師	【特別講演】地域医療について2	1,2,4,5,10,11
講義	5/28(金)	4	学長 教養教育センター	祖父江 憲治 学長 江尻 正一 教授	【全人的医療基礎講義】 学長講義 創立者三田俊次郎が掲げた理想の医療、120年余の本学の歩み、そして6年間の学びのための心構えについて学ぶ。	1,8,9,10,11,12
講義	6/2(水)	4	医学教育学分野	田島 克巳 教授	医療プロフェッショナリズム講義	1,2,4,5,8
実習	6/15(火)	3	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	グループ13～24 医療学入門（BLS実習） 災害時地域医療支援教育センターで実施 (グループ1～12は細胞生物学Ⅰ・医歯薬総合研究所見学)	9
実習	6/15(火)	4	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	グループ13～24 医療学入門（BLS実習） 災害時地域医療支援教育センターで実施 (グループ1～12は細胞生物学Ⅰ・医歯薬総合研究所見学)	9
実習	6/22(火)	3	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	グループ1～12 医療学入門（BLS実習） 災害時地域医療支援教育センターで実施 (グループ13～24は細胞生物学Ⅰ・医歯薬総合研究所見学)	9
実習	6/22(火)	4	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	グループ1～12 医療学入門（BLS実習） 災害時地域医療支援教育センターで実施 (グループ13～24は細胞生物学Ⅰ・医歯薬総合研究所見学)	9
実習	7/29(木) ～ 7/30(金)			県内外の協力機関の 指導者	医療体験実習	3,10,12,13,14

講義	9/17(金)	4	教養教育センター	川田 龍平 客員教授	【全人的医療基礎講義】 薬害を考える ーいのちが守られる社会の 実現のためにー 薬害エイズ訴訟原告として の実体験に基づき、「いの ちを守る社会」を実現する ための医療者の責任を学 ぶ。	1,2,4,5,15
実習	10/5(火) ～ 10/14(木)			県内の協力機関の 指導者	看護・介護体験実習	11,12,13,14
講義	10/22(金)	4	教養教育センター	江尻 正一 教授 相澤 文恵 教授	【全人的医療基礎講義】 「長寿時代のエンドオブ ライフ・ケア」 東京大学大学院人文社会系 研究科 死生学・応用倫理センター 会田 薫子 特任教授 人生の最終段階における医 療的介入に関する諸問題を 学ぶ事で医療従事者に求め られる死生観について学 ぶ。	1,2,4,5,16,17,18
実習	11/10(水)			県内外の協力機関の 指導者	地域医療見学研修	3,10,14
実習	12/1(水)		地域医療学分野	伊藤 智範 教授	地域医療見学研修 報告会	3,10,14

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	医療格差	川田龍平	角川書店	2011
推薦図書	なぜこの国は被害者を守らないのか	川田龍平	PHP	2013
推薦図書	沈みゆく大国アメリカ<逃げ切れ!日本の医療>	堤未果	集英社	2015
推薦図書	人はなぜ、同じ過ちを繰り返すのか?	佐治晴夫×堤未果	清流出版	2012
参考書	高齢者ケアと人工栄養を考える ー本人・家族のための意思決定プロセスノート ー	清水哲郎・会田薫子	医学と看護社	2015
参考書	延命医療と臨床現場 ー人工呼吸器と胃ろうの医療倫理学ー	会田薫子	東京大学出版会	2011

・成績評価方法

・講義レポート	25% (うち全人的医療基礎講義レポート11%)
・BLS実習	10% (実技試験を行う)
・医療体験実習	12.5%
・看護・介護体験実習	40%
・地域医療見学研修	12.5%

◎事前レポート (形成的評価に使用)

「あなたの目指す医師像とそれを達成する過程として大学6年間でやらなければならないこと」について800字～900字でレポートにまとめ、医療入門の最初の講義の前日 (4/28) までにWebClassで提出する。

◎講義レポート

下記の講義終了後に、講義の内容 (簡潔に) と講義を受けての自身の考えを800～1000字でレポートにまとめてWebClassで提出する。

提出期限については、講義終了後2週間以内とする (実際の提出期限は掲示する)。

- ① 4月28日 (水) 4限 佐々木真理医学部長
- ② 5月12日 (水) 4限 伊藤達朗非常勤講師 (中部病院長)
- ③ 5月19日 (水) 4限 佐藤元美非常勤講師 (藤沢病院長)
- ④ 5月28日 (金) 4限 祖父江憲治学長特別講義 (全人)
- ⑤ 6月2日 (水) 4限 田島克巳教授
- ⑥ 9月17日 (金) 4限 川田龍平客員教授特別講義「薬害を考える一いのが守られる社会の実現のために」 (全人)
- ⑦ 10月22日 (金) 4限 会田薫子講師特別講義「長寿時代のエンドオブライフ・ケア」 (全人)

◎BLS実習

①実習前後の提出物と実技試験で評価を行う。

◎医療体験実習・地域医療見学研修の評価内容

①学習・発表会・ポートフォリオの提出・内容

②感想文提出 (800～1000字)

◎看護・介護体験実習の評価内容

態度評価点

介護施設および看護部から提出された評価票の内容

※介護実習については、施設訪問教員による評価も含む。

実習内容等をまとめたポートフォリオやレポートを提出の都度評価し、学生にフィードバックを行い、学修を支援する。

※新型コロナウイルスの影響で実習が中止となった場合にはPBLなどのグループ学修、映画鑑賞などに変更することがあり、この場合の評価については変更の都度説明を行う。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修 (予習・復習) を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、実習室、心肺蘇生シミュレーター、WebClass

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			